



営農NEWS



キュウリ栽培でのべと病、うどんこ病、ハダニ類の発生に注意し、防除を徹底しましょう

病害虫発生予報 5 月号（県病害虫防除所）によりますと、促成キュウリにおけるべと病の発生は、発病葉率および発生地点率ともに平年より高く、また、うどんこ病では発病葉率が高く、発生地点率が平年並の状況で、いずれも今後とも発生量が多くなると予想しています。さらに、ハダニ類の発生がやや多い状況で、今後とも同様に推移すると予想しています。

これからも適正な整枝、剪定や肥培管理を行うと共に、晴天の日をねらって薬剤防除を徹底することが重要です。

＜防除のポイント＞

- 1 施設内の過湿を防ぐため、気温や風向き等を常に注意して換気を行い、日中は除湿機の稼働や送風などに努め、適正な温湿度の管理を行ってください。
- 2 株間の通風をよくするための適正な整枝や剪定、樹勢を最適に維持するための適正な灌水や追肥など、常に適切な栽培管理に努めてください。
- 3 発生は、下葉や葉の込み合っている場所の裏葉などを丁寧に観察して、早期発見に努めてください。
- 4 病害虫の発生を確認したら、早期に防除を行ってください。薬剤散布は十分量の薬液で、葉裏や下葉にもよくかかるよう丁寧に行うことが重要で、夕方までには薬液が乾く時間帯に行ってください。
- 5 既に多発生した場合には、発病葉や茎などをできるだけ除去した後に薬剤散布を行い、発生部に薬液が十分付着されるようにしましょう。
- 6 薬剤耐性菌や抵抗性害虫の出現を抑制するため、異なる系統の薬剤でローテーション散布してください。

表 1 キュウリべと病の主な防除薬剤（平成 28 年 5 月 9 日現在）

薬 剤 名	希釈倍率	使用時期 / 使用回数	その他の対象病害
プロポーズ顆粒水和剤 ※※	1,000～1,500 倍	収穫前日まで / 3 回以内	うどんこ病、褐斑病、黒星病（いずれも 1,000 倍）
カーゼート P Z 水和剤 ※	1,000～1,500 倍	収穫前日まで / 3 回以内	
ランマンフロアブル	1,000～2,000 倍	収穫前日まで / 4 回以内	
アリエッティ C 水和剤	400～800 倍	収穫前日まで / 3 回以内	褐斑病
フェスティバル水和剤	2,000 倍	収穫前日まで / 3 回以内	
ジマンドイセン水和剤 ※	600～800 倍	収穫前日まで / 3 回以内	褐斑病、つる枯病、黒星病、疫病、炭疽病（いずれも 600 倍）

注）表 1、2 の※印がある薬剤は有効成分マンゼブを、※※は有効成分 T P N を含みます。キュウリにおける総使用回数に十分注意してください。

表 2 キュウリうどんこ病の主な防除薬剤（平成 28 年 5 月 9 日現在）

薬 剤 名	希釈倍率	使用時期 / 使用回数	その他の対象病害虫
パンチョ T F 顆粒水和剤	2,000 倍	収穫前日まで / 2 回以内	
ガッテン乳剤	5,000 倍	収穫前日まで / 2 回以内	
フルピカフロアブル	2,000～3,000 倍	収穫前日まで / 4 回以内	灰色かび病、褐斑病
ダコニール 1000 ※※	1,000 倍	収穫前日まで / 8 回以内	べと病、灰色かび病、褐斑病、黒星病、炭疽病
ベルコートフロアブル	2,000 倍	収穫前日まで / 5 回以内	灰色かび病、菌核病、褐斑病、黒星病、炭疽病
モレスタン水和剤	2,000～4,000 倍	収穫前日まで / 3 回以内	コナジラミ類（希釈 2,000 倍）

表 3 キュウリ ハダニ類の主な防除薬剤（平成 28 年 5 月 9 日現在）

薬 剤 名	希釈倍率	使用時期 / 使用回数	その他の対象害虫
コテツフロアブル	2,000 倍	収穫前日まで / 3 回以内	ウリノメイガ、ウリハムシ、ミカン・ミナミキイロアザミウマ
コロマイト乳剤	1,000～1,500 倍	収穫前日まで / 2 回以内	コナジラミ類（希釈 1,500 倍）、ハモグリバエ類（1,000 倍）
ダニサラバフロアブル	1,000 倍	収穫前日まで / 2 回以内	
マイトコーネフロアブル	1,000 倍	収穫前日まで / 1 回	

農薬使用の際は、必ずラベル及び登録変更に関するチラシ等の記載内容を確認し、飛散に注意して使用して下さい。



生産資材部 営農企画課

電話：029-291-1012 FAX：029-291-1040